

遊戯王5ds2 (仮)

ナハト

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

——ただ一つ、やり残したデュエルがある

目次

電子の海

1

電子の海

デュエルには大きく分けて二つ存在する。古き良きルールであり手軽なスタンディングデュエルと、Dホイールを駆って行うライディングデュエルだ。

しかしその人気はWRGP以降、ライディングデュエルに大きく傾いた。世界中を熱狂の渦に叩き込んだ名勝負の数々、そしてそれに並行して起こったある世界的な事件がその大きな要因と言える。

しかし有ることをキツカケにスタンディングデュエルが大きな勢いを取り戻す。その要因となつたのが『ダイヤモンドジョントーナミナル』——通称をDTとする——という機械の発明である。

そもそも、デュエルモンスターズは対戦相手が居なきや成立しない対戦ゲームだ。そしてその対戦相手はそれこそデュエルを行うことで金を儲けられるようなプロデュエリストでもない限り身近な相手に限られてしまう。

そんな当たり前を粉々に打ち砕いたのがDTである。この機械はデュエルディスクをつなぐことで起動し、付随したヘルメットのような機械を装着することで使用者の脳波を読み取り、電子の世界へと意識を旅立たせる。そして同じくDTを装着した誰かと

対戦を行うことができるという代物だ。

そこはまさしく決闘者^{デュエリスト}の楽園とも呼ぶべき場所だった。多くのプロデュエリスト達がこぞつてこのDTを使用、宣伝したことで『一般人でもプロと戦うことができるかもしれない』という宣伝項目に説得力をもたせ、忽ち世界中のデュエリストを虜にした。

使用者全員にアカウントが配布され、そのアカウントを持ってライバルと競い合う『レーティング』のシステムが採用されてからは、もはやライディングにも負けないかつてのスタンディングの人氣が戻っていた。特に高レート帯にいるものには定期的に賞金が支払われその額は世界最高峰の大会のそれに何ら劣らないものであることから、上位レートでは常に激しい決闘が繰り広げられている。

また一部高レートのプレイヤー——基本的に現実でも名の通ったプロデュエリストだが——は自らのアカウントを公開しており、彼らの闘いを観戦する為にこの電子の世界を訪れるものも多い。DTで行われる決闘は使用者であれば無料で観戦することができる。息を呑むようなプロの決闘をタダで見れるというのだから、コレも当然といえるだろう。

さて、そんなDTを使用するユーザー達の間で近日話題になっているアカウントがある。そのアカウントはある日彗星のようにレーティングに現れると破竹の勢いで連勝を

重ね、プロの跳梁跋扈している領域にまで進んでもその足を止めず、ついには世界ランカーとまで対戦できる程の超高レート帯にまで上り詰めた。恐るべき強さと華麗なデュエルタクティクスを誇るそのアカウントはしかし、勝敗以外の何の情報も公開していなかった。

人々は当然そのアカウントの正体を探りはじめた。名の通ったプロの誰かだろう、いやK Cの作り出した決闘用の人工知能ではなからうか、いやいやきつともつとオカルトじみたものに違いない。

——今や世界中の人々から注目を集めるそのアカウントの名は『A t e m u』。
その名の意味を知るものは、この世には既に1人も居ない。